



# 第六駆逐隊 の落日

雷・電編

基本CG 8 枚

本編 75 ページ

総枚数 219 ページ

Presented by ふうりん亭



第六駆逐隊は一時的に他の鎮守府に転属し任務に就くことになった  
しかし先行して着任した暁と響を待ち受けていたのは  
海軍上層部との太いパイプを持つ提督による権力をかさね着た  
一方的な凌辱だった

自分たちの司令官のため、お互いのために逆らわずに  
言うことを聞いた二人だったが、あらゆる凌辱の果てに  
やがて心も体も無残に壊されてしまう――

これはそんな二人の状況なんてまだ知りもしなかった頃の話――

では艦たちこそ鎮守府に仮転属するのですわ

ああ  
ああ  
暁と響は回廊をまわって任務してごらんだったか  
二人もサポートしてあげてほしいわ

仕方ないわねえ  
でも司令官の知り合いが困っているなら  
助けてあげないとな

苦勞を掛けるがよろしく頼むよ





愛ひしけしけいんじらぬのりゃ  
司令官さくの期待はあきらめなすのりゃ

くれぐれも無茶はするんじゃないぞ？

むしるが私がいなら副の司令官の味うが心配よー  
お弁当作って送ってあげようか？

それくらい何とかなるよ……  
帰ってきたときを楽しんでおくれな







僕等が二人も送り出してしまった

© 2011 Pearson Education, Inc. All rights reserved.







しゅわん...  
痛...  
痛...  
痛...

さすが初物♡ よく締まるらしいオムツだね♡  
もう脱ぎたいも響ちゃんも  
ガハガハで使った物にならなからな...♡

ちゅ...響...  
「こんな」...絶好調とれな...んだが...  
...  
...  
...

まじ...きついなあ雷ちゃんは♡  
提督を甘やかしてくれる艦娘なんですよ♡  
僕の「」も甘やかしてよ♡

誰か...  
あなたなんか私の司令官じゃな...  
...  
...

かみ...それじゃあ...  
雷ちゃんの司令官...  
...  
...





まあさすがにまだ苦しいかな...  
時間もあるしゆっくり慣らしてしまおうか

お...お...お...  
は...は...は...  
お...お...お...  
は...は...は...  
お...お...お...

あ...あなた...  
二人に一体なにして...  
あ...あなた...  
二人に一体なにして...

あ...あなた...  
二人に一体なにして...  
あ...あなた...  
二人に一体なにして...

あ...あなた...  
二人に一体なにして...  
あ...あなた...  
二人に一体なにして...

あ...あなた...  
二人に一体なにして...





























あれっ 急に萎となくなっちゃって  
死んじゃった雷ちゃん♡

…電たちの状況は分かったのです  
もう電は抵抗しません…  
三人には酷いことなすは…

クククク…

ズルッ

びっ

健気だねえ♡  
でもそれは約束できないよ♡  
まあ電ちゃんがほかのみんなの分も  
働いてくれるのなら、ほかのみんなの負担も  
ちよとくくらは減るかもしれないけれどねっ

アッ

アッ

アッ





それじゃ「これから何されるかも  
覚悟はしてあります」ことかな？♡

……は……なのです……  
「それ」は「可令官とエッチ」  
「おっぱい」……おっぱい……

アッ

アッ

「可令官の「おっぱい」  
「おっぱい」……おっぱい……

……は……  
「おっぱい」……おっぱい……  
「おっぱい」……おっぱい……

アッ

アッ





ははははは♡  
それじゃあ一緒に楽しもうよ♡

。。。ああ。。。  
ね。。。おっきい。。。のです  
いっなの。。。

ズルッ

ふふ♡  
艦娘は丈夫だからね  
おへその裏まで挟られても  
気持ちよくなるから安心して♡

はははは。。。  
。。。。。。。。。。

そんな「艦娘」なら♡  
ちよつと。。。つただけで。。。。。。  
雷ちゃんなら大丈夫だよ♡









ん.....ん.....ん.....♡...?

ハハハハ

んんんんん

んんんんん

んんんんん



電ちゃんまさか  
処女膜破られてしまったのっ♡

……おえ……  
……おえ……  
……おえ……

これはすごいよ電ちゃん♡  
いろんな艦娘を犯してきたけど  
お菜もなしにいきなり潮噴いたのは  
電ちゃんが初めてだよ♡

はえッ……ッッ  
そんな……ち……ちがッ  
こんなの……うそなのです……

まさか末っ子で精楚な電ちゃんが  
こんな巨乳を手だつたなんてお♡  
もしかして初めから僕に  
犯されたかったんじゃなりのっ♡

うそ……なんだっ……  
「ん……ッ」

……



う……あ……う……  
やめ……う……う……か……ッ  
いた……ッ

がん

もう……そんな演技いいよ♡  
その割には膣肉がいい感じにほぐれてて  
気持ちよさそうにチンポ包み込んでくるよ♡

んんん

ちがう……ちがうのです……ッ  
こんなの……気持ちよくなんか……ッ

んんん

んんん

いやでも君の『司令官さん』も不憫な奴だな♡  
慕ってくれてる秘書艦が実は誰のチンポでも  
即イキする淫乱娘だったんだから♡

ん

やだあ……ッ……  
そんなの……ちがうの……ッ









ん...おっ...っ...っ...♡  
...おっ...っ...っ...♡

さすがに意識飛んじゃったかな  
もうすぐ夜明けだし  
さすがに電ちゃん持たないよね...♡

あ...しれえかん...さん♡  
いなすま...しあわしえ...なのれす...♡

——しれえかん  
僕を「司令官さん」と勘違いしてるのかな...♡  
じゃあもう少したけ幸せな夢を見せてあげよう♡

い...♡

ん...♡

ん...♡

ん...♡

ん...♡





あ...あ...あ...  
か...は...は...  
に...に...に...

に...に...  
に...に...

——夢の中へ入る「現実」の  
子供を孕める「現実」

に...に...

に...に...  
に...に...  
に...に...



あの部屋に帰って来よう  
手を握り合おうよ  
今回は、少しだけお返ししよう

あ...うん...お返し  
...うん...うん...

早くしないと人が来ちゃうぞ  
「うん」は猫が話しかけてくるとか  
そんなお返しはしたくないよ

うん...うん...うん...  
うん...うん...うん...  
うん...うん...うん...

それじゃお返しは...  
最近はお返しも...  
楽しそうに話しかけてくれた

うん...うん...  
うん...うん...うん...

うん

うん

うん





はい時間切れ♡

ひび...ん♡  
ひび...ん♡  
ひび...ん♡

はっ

ぐろ...

今回のチャットもタマだったね♡  
罰として「お嬢のマナルセックス」しようね♡

んが...おっぱい...んが...んが...んが...  
誰か「おっぱい」...んが...んが...んが...

その時はその人にも参加してもらえばいいよ♡  
僕以外のチンポも気になるでしょ♡(笑)

おっぱい

んが









は...♡あか...♡  
は...♡あか...♡

は...♡

は...♡

は...♡

は...♡は...♡は...♡  
は...♡は...♡は...♡  
は...♡は...♡は...♡

あ...♡か...♡は...♡  
ま...♡は...♡な...♡  
は...♡な...♡た...♡  
は...♡

は...♡

は...♡





「これだけ拡張したら僕のも入るよね♡  
きゅんんんんん♡

んんん♡んんんんん!!  
...んんんんん...んんんんん♡

もしかしたら寝てしまわなくなっちゃったかも...  
その時は修復材も無いから女らしさね♡

Mmm

んんん



んっ...んっ...んっ...んっ...んっ...  
んっ...んっ...んっ...んっ...んっ...  
んっ...んっ...んっ...んっ...んっ...

んっ...んっ...んっ...んっ...んっ...  
んっ...んっ...んっ...んっ...んっ...

んっ...んっ...んっ...んっ...んっ...  
んっ...んっ...んっ...んっ...んっ...  
んっ...んっ...んっ...んっ...んっ...

MMP

MMP

MMP

EVA

EVA























「おはようございます、おはようございます」  
「おはようございます、おはようございます」  
「おはようございます、おはようございます」

「ええ、またキマアツマツ...」  
「ええ、またキマアツマツ...」  
「ええ、またキマアツマツ...」

「えー？ またキマアツマツ...」  
「えー？ またキマアツマツ...」  
「えー？ またキマアツマツ...」

「ぐぐぐぐぐぐ」  
「ぐぐぐぐぐぐ」  
「ぐぐぐぐぐぐ」

「うん...うん...うん...」  
「うん...うん...うん...」  
「うん...うん...うん...」

「うん...うん...うん...」  
「うん...うん...うん...」  
「うん...うん...うん...」

「うん...うん...うん...」  
「うん...うん...うん...」  
「うん...うん...うん...」

「うん...うん...うん...」  
「うん...うん...うん...」  
「うん...うん...うん...」

「うん...うん...うん...」  
「うん...うん...うん...」  
「うん...うん...うん...」

「うん...うん...うん...」  
「うん...うん...うん...」  
「うん...うん...うん...」













それじゃそんな電ちゃんに「  
イツちゃんたへナルテイです♡」

うっは...は...  
あ...さんの...入るわけないですッ

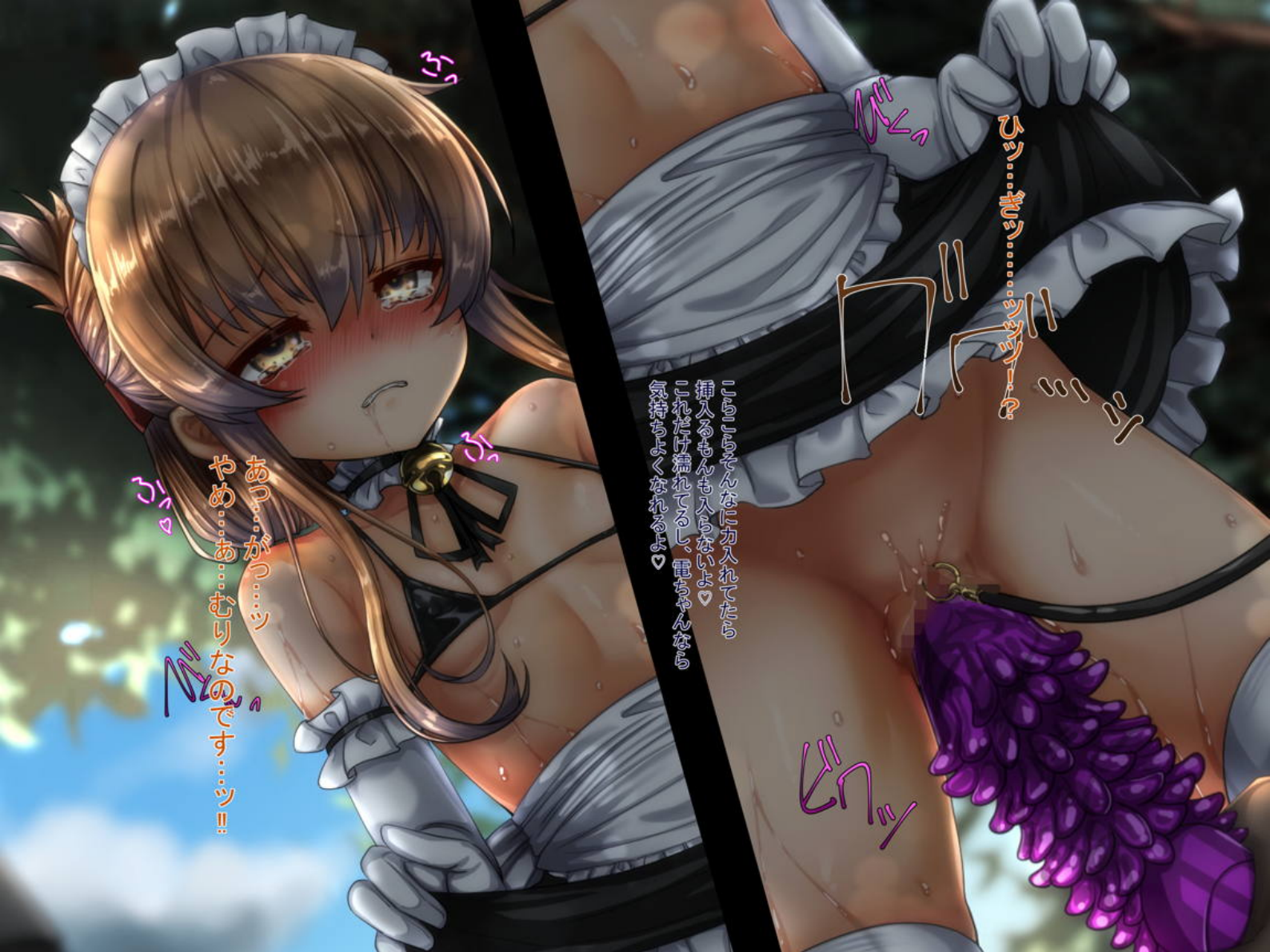
でもこれなら一回は挿入れちゃえば  
どんなに頑張っても抜けないよ♡  
これで鎮守府までおもちや落とさずに  
帰れるよ♡

あ...は...は...  
あ...は...は...

あ...

んん

↑↑↑



あひ...が...  
やめ...あ...むりなのです...!!!

「こらこらてんなにカ入れてたら  
挿入るもんも入らないよ♡  
これだけ濡れてるし、電ちゃんなら  
気持ちよくなるわ♡」

びん

びん...びん...びん...

びん びん びん





おっ...おっ...おっ...  
おっ...おっ...おっ...  
おっ...おっ...おっ...

——ん、ちんぽを握るの気持ちいいな...♡  
握った瞬間、ちんぽが腰肉を貫いて  
すっぴんを味わったよ♡

はっ...はっ...はっ...  
ちんぽの...ちんぽ...  
ちんぽ...♡

でも自分の足を歩かないと  
そこら辺の木にでもリード括り付けて  
置いておきゃうよ♡

おっ...おっ...おっ...  
おっ...おっ...おっ...  
おっ...おっ...おっ...







はぐっ...はぐっ...はぐっ...♡♡

×××××

はぐっ

はぐっ...はぐっ...はぐっ...♡♡

はぐっ  
はぐっ  
はぐっ  
はぐっ

はぐっ

はぐっ...はぐっ...はぐっ...♡♡

それにしても  
一歩ごとくマイニングするね♡  
今度は十回マイニングに罰ゲームでも追加しようか♡

×××

今度はいったい何するつもりなのよ……

相変わらずの言葉は最初から  
威嚇が強いよ♡  
ケツ穴に挿れ込まれたらさっさと  
泣きながら挿れちゃおうのよ♡

誰かにあなたに逆らえないけど……  
心まで言いなりになんてならないわ……ッ

またまた♡  
実は何されるか期待しちゃってるんだよ♡  
安心してね……ちよっとした実験だから♡

へかきムネをなぞる……

……

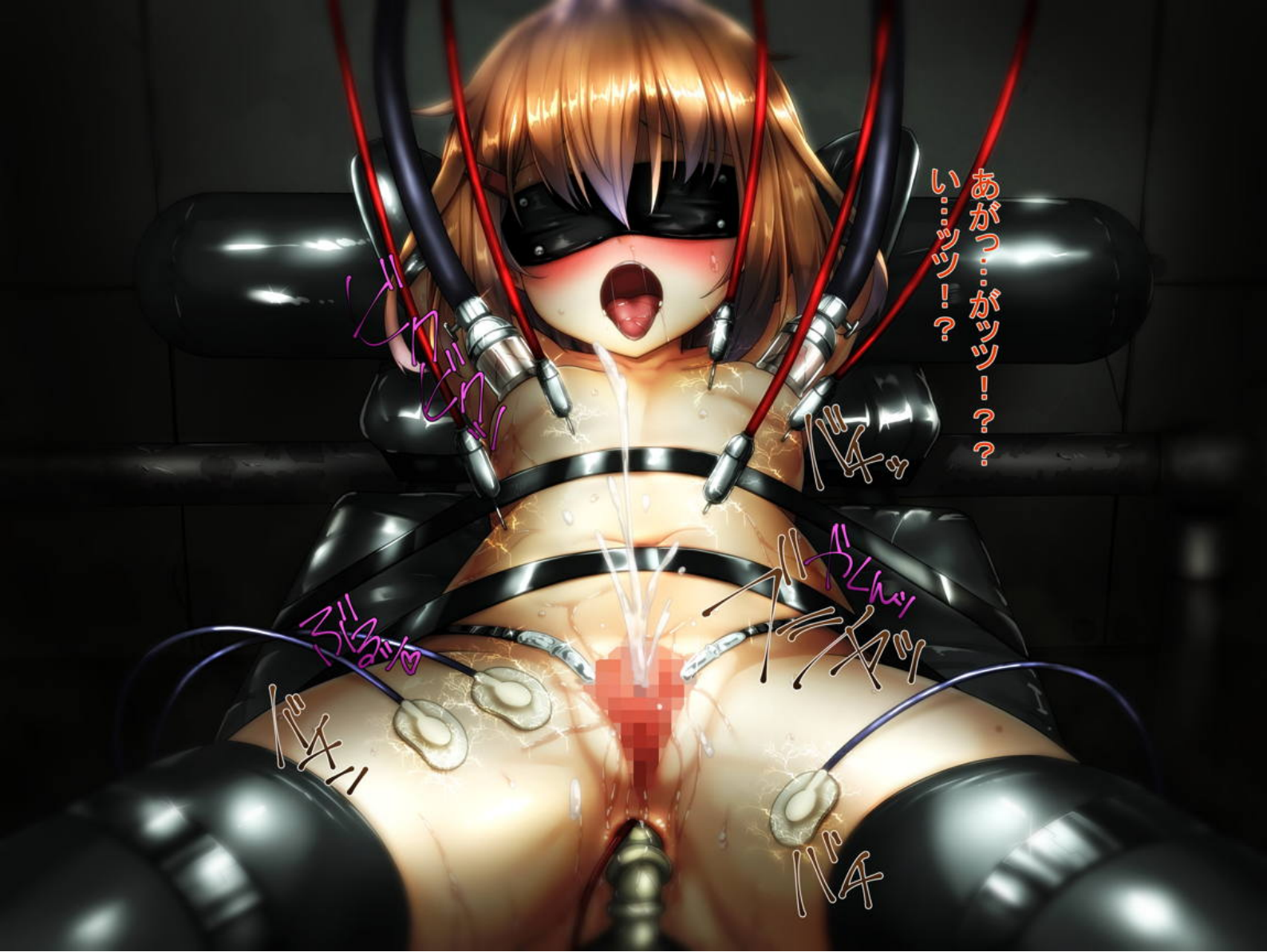
……

……

……







あがつ...がッ...?  
い...ッ...?

アッ  
アッ  
アッ

アッ  
アッ

アッ  
アッ

アッ  
アッ  
アッ

アッ  
アッ

アッ  
アッ







あひゃん...んぐんぐん...  
んぐんぐんぐん...

あーやっはり泣いちゃったか♡  
ほんとにすぐ折れちゃうんだから  
雷ちゃんはかわいいなあ♡

はっ...し...司令官...  
司令官...た...たすけてよお...

あひゃん...んぐんぐん...  
この娘は同じ事されても助けは求めなかったからね♡

んぐんぐんぐん...んぐん...

はあはあの子の寝顔...  
寝てしまえばいいな♡

んぐんぐん...



















あじ...あじ...  
そんな...うん...うん...うん...

うん... その...おっぱい...  
陸に挙げてから舌く絡む...  
生殖本能がす...いんだよね

な...ん...ひよこの卵...  
深海で産む...うん...うん...  
うん...うん...うん...

電ちゃんには相変わらず僕...  
余計な...うん...うん...うん...

あ...あ...あ...

あ...あ...あ...

あ...あ...あ...

あ...あ...あ...

あ...あ...あ...

あ...あ...あ...

あ...あ...あ...

あ...あ...あ...

















あがっ……っ……っ……あえ……っ……  
あえ……っ……っ……っ……

音囃んたらさすがにまずいからね♡  
それじゃ僕ほしはらく外すから  
心置きなくイ級君との子作りに励んでね♡

ムフッ…

ムフッ…

ムフッ

ムフッ











晩と響の惨状を知った僕は何とかして四人を取り戻そうとした  
僕には提督として彼女たちを守る義務があった

——いや違う。僕はその義務を守れなかったのだ

——それでも僕はもう一度彼女たちに会いたかった

たとえもうあの頃の四人とは違ってしまっているのだとしても

結果だけを言おう——

僕には何もできなかった

彼女たちを取り戻すどころか、その姿を一目見るとさえ——

そんな僕の元に一通のメールが届く



あはれー種々様々うんうんうんうん  
うんうんうんうんうんうんうんうん  
うんうんうんうんうんうんうんうん  
うんうんうんうんうんうんうんうん  
うんうんうんうんうんうんうんうん





——と、いっわけで  
雷ちゃんと電ちゃんは現在こんな感じでーす

さすがに僕も睡ちゃんと響ちゃんの「ト」は  
反省してかなり丁寧な調教したんだけど  
結局壊れちゃった♡

快楽と淫靡で頭の中「コー」して  
すっかり言葉もじゃ入れなくなっちゃったよ

あー♡

あー♡

あー♡

あー♡







Mmm  
Aww  
Cute

Mmm  
Aww  
Cute

Mmm  
Aww  
Cute

Mmm  
Aww  
Cute

Mmm  
Aww  
Cute

Mmm  
Aww  
Cute

Mmm  
Aww  
Cute

はいーっこんな感じで  
彼女たちの主食はザーメンとオシッコだよ♡

以上で近況報告は終わりだよ  
楽しんでるよええたかな？  
君ならはこの有様を見ても  
もしかしたら二人に会いたがるかもしれないから  
衛兵に許可を出しておくね

もう曉ちゃんと響ちゃんは売っちゃったからいないけど  
二人にならわせてあげられるよ

頭からザーメンかけてあげたら  
泣いて喜ぶから是非試してみてね♡  
『元』今百君





